

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
62012	博物館概論	2単位 前期	1~3	講義	森 達也

■テーマ 博物館学芸員の仕事を理解する

■授業概要

博物館・美術館の定義、役割、機能、法令、歴史など基本的な事柄と学芸員の役割について論ずる。

■到達目標

博物館・美術館の基本的な知識を身につけ、学芸員の役割について理解をする。

■授業計画・方法

下記の内容を講義形式で論ずる。

1. オリエンテーション
2. 博物館・美術館の現代社会における役割
3. 博物館・美術館の歴史と現状1（欧米）
4. 博物館・美術館の歴史と現状2（日本・アジア）
5. 博物館関係法令1（社会教育法、博物館法）
6. 博物館関係法令2（文化財保護法）
7. 博物館・美術館の定義、種類
8. 博物館・美術館の目的、機能
9. 学芸員の役割1（資料の取り扱い、研究）
10. 学芸員の役割2（教育・普及）
11. 学芸員資格が役立つ職種
12. 博物館・美術館の組織
13. 博物館・美術館の建築・設備
14. 博物館・美術館の今日的課題
15. 定期試験および授業総括

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・博物館学課程を履修し、学芸員資格の修得を目指す学生を対象とする。
（同課程の「博物館実習」（3・4年次）は、この科目が履修済みでないと履修できないので注意すること。）
- ・博物館・美術館に対する理解を深めるために、県内の博物館・美術館施設を自発的に見学してもらいたい。

■成績評価の方法・基準

- 方法 授業態度、出席状況（評価の40%）および学期末の試験期間に実施する筆記試験（評価の60%）によって評価する。
- 基準 達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

- 教科書：特になし。必要な資料は、授業の際に適宜配布する。
- 参考文献：全国大学博物館講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版）2012年

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
62013	博物館経営論	2単位 後期	2～3	講義	森 達也

■テーマ 博物館学芸員の仕事を理解する

■授業概要

博物館・美術館の管理、運営、経営、財政に関する事項を論ずる。あわせて、日本の博物館・美術館の経営上の課題について実例を挙げながら論ずる

■学習目標

博物館・美術館の管理と運営に関して理解し、博物館経営（ミュージアムマネジメント）についての基礎的な知識を身につける。

■授業計画・方法

下記の内容を講義形式で論ずる。

1. オリエンテーション
2. 博物館経営の基盤
3. 博物館の財政
4. ミュージアム・マネジメントの意義と方法
5. 博物館の経営1（公立、独立行政法人）
6. 博物館の経営2（私立、財団法人、学校法人、宗教法人、その他）
7. 博物館の経営3（海外の博物館）
8. 博物館と利用者の関係
9. 博物館の広報と営業
10. 博物館の評価（自己評価と外部評価）
11. 博物館の危機管理（自然災害、人災、戦争、テロ）
12. 博物館を支える人々（友の会、ボランティア）
13. 地域社会との連携
14. 博物館のネットワーク
15. 日本における博物館経営の今日的課題（定期試験は実施しない）

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

インターネットでなるべく多くの博物館・美術館のホームページにアクセスし、その活動状況を把握しておくことが望ましい。

■成績評価の方法・基準

□方法 授業態度、出席状況（評価の40%）および学期末のレポート（評価の60%）によって評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書：特になし。必要な資料は、授業の際に適宜配布する。

□参考文献：全国大学博物館講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版）2012年

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
62022	博物館資料論	2 単位 前期	2~3	講義	森 達也

■テーマ 博物館学芸員の仕事を理解する

■授業概要

博物館資料の概念と、その収集、保管、保存、活用、研究などの方法について論ずる。

■学習目標

博物館資料の収集、整理、保管、活用についての知識・技術を習得し、併せて博物館・美術館における調査研究活動について理解する。

■授業計画・方法

下記の内容を講義形式で論ずる。

1. オリエンテーション
2. 博物館資料の概念
3. 博物館資料の種類
4. 博物館資料の収集（理念と方法）
5. 博物館資料の整理
6. 博物館資料の保管
7. 博物館資料の活用（研究）
8. 博物館資料の活用（展覧会・教育普及）
9. 博物館資料の公開
10. 著作権
11. 博物館資料の保存と修復
12. 博物館資料の研究
13. 博物館・美術館における研究活動
14. 博物館資料の調査研究成果の社会還元
15. 授業総括（定期試験は実施しない）

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

自主的に博物館、美術館へ行き、資料の活用状況を見学しておくことが望ましい。

■成績評価の方法・基準

□方法 授業態度、出席状況（評価の40%）および学期末のレポート（評価の60%）によって評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書：特になし。必要な資料は、授業の際に適宜配布する。

□参考文献：全国大学博物館講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版）2012年

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
62023	博物館資料保存論	2 単位 後期	2~3	講義	森 達也

■テーマ 博物館学芸員の仕事を理解する

■授業概要

博物館における資料保存の意義とその方法、展示・収蔵に適した環境、資料の修復方法などについて論ずる。併せて文化財保護についても論ずる。

■学習目標

博物館・美術館における資料の保全方法やその保存・展示・収蔵に適した環境等に関する科学的な基礎知識を習得する。

■授業計画・方法

下記の内容を講義形式で論ずる。

1. オリエンテーション
2. 博物館における資料保存の意味と目的
3. 博物館資料の保全方法
4. 博物館資料の梱包と輸送
5. 博物館資料の保存
6. 博物館資料の保存環境（光、温湿度、空気など）
7. 博物館資料の保存環境（生物被害）
8. 博物館資料の保存環境（天災、人災）
9. 資料保存の技術
10. 資料保存の方法
11. 博物館資料の劣化
12. 博物館資料の修復
13. 博物館資料と文化財保護
14. 地域資源としての博物館資料の保存
15. 博物館の防災 まとめ（定期試験は実施しない）

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

授業期間中に、新聞やインターネットニュースで掲載された文化財保存に関する記事を探し、記事の切り抜きやプリントアウトを持参すること。

■成績評価の方法・基準

□方法 授業態度、出席状況（評価の40%）および学期末のレポート（評価の60%）によって評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書：特になし。必要な資料は、授業の際に適宜配布する。

□参考文献：全国大学博物館講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版）2012年

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
62024	博物館展示論	2単位 後期	2~3	講義	小林 純子

■テーマ 博物館展示の理論

■授業概要

博物館の展示は諸活動の中心で、特に美術館においては重要です。展示の歴史や発達、現状についての基礎的知識、また展示の理論やさまざまな技術を教えます。博物館における展示、特に美術資料の展示について講義します。美術資料の展示は、歴史資料や民俗資料などのそれとは異なった特性があり、また長い歴史を持っています。これまでに多様な方法や技術が開発され、先端的な科学技術も用いられています。近隣の美術館や大学附属芸術資料館も利用しながら、これらを学んでいきます。

■到達目標

- ・授業で学修した展示に関する知識や技術、展示理論などをもとに、独自の展示を組み立てることができる。
- ・学問的な裏付けがあり、社会的意義を有し、挑戦的かつ実現性が高い展示企画ができる。
- ・企画展に関するテキスト（開催要項・パネル原稿・キャプション原稿等）を作成することができる。

■授業計画・方法

1. 博物館における「展示」とはなにか
2. 博物館展示の種類
3. 博物館展示の歴史
4. 展示資料について（種類と製作）
5. 展示室の環境と保存
6. 展示手法と展示構成
7. 展示ケース・展示台について
8. 映像展示について
9. 展示照明について
10. ハンズオン展示について
11. 音声ガイドとギャラリートーク
12. 展示関係の印刷物と著作権法
13. 展示計画のワークフローについて
14. 展覧会の実際
15. まとめと質疑応答。
定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・頻繁に博物館や美術館を訪ね、展示を博物館学的観点で見て回ること。
- ・県内の美術館・博物館の常設展示を見て、見学レポートを作成する課題を出します。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点（20%）、見学レポート（20%）、学期末レポート（60%）を評価の対象とします。
学期末レポートの課題は企画展を構想すること（提出物等の詳細は授業中に知らせる）です。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

- 参考文献 加藤有次ほか編『博物館展示法（新版 博物館学講座 第9巻）』雄山閣出版、2000年
青木豊『人文系博物館展示論』雄山閣、2013年

黒沢浩『博物館展示論』講談社、2014年

里見親幸『博物館展示の理論と実践』同成社、2014年

高橋明也『美術館の舞台裏:魅せる展覧会を作るには』(ちくま新書)、筑摩書房、2015年

藤原工『学芸員のための展示照明ハンドブック』講談社、2014年

甲野正道・山梨俊夫/著、全国美術館会議/編『現場で使える美術著作権ガイド』ブリュッケ、2011年

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
62032	博物館情報・メディア論	2単位 後期	2～3	講義	森 達也

■テーマ 博物館学芸員の仕事を理解する

■授業概要

博物館・美術館における情報化、情報の提供と活用などに関して、その意義と方法、課題について論じる。

■学習目標

現代の博物館・美術館における情報発信の実情を理解し、その意義・活用方法等に関する基礎的知識を習得する。

■授業計画・方法

下記の内容を講義形式で論ずる。

1. オリエンテーション
2. 博物館における情報・メディアの意義
3. 博物館活動の情報化
4. 博物館資料のドキュメンテーション
5. 博物館資料のデータベース化
6. デジタル・アーカイブの現状と課題
7. 博物館・美術館における情報発信
8. 博物館・美術館とインターネット
9. クラウドコンピューティングの活用
10. デジタルミュージアムの意義と課題
11. 博物館・美術館の広報
12. 博物館・美術館の図書資料
13. 博物館・美術館の情報管理と情報公開
14. 博物館・美術館と知的財産権
15. 授業総括（定期試験は実施しない）

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

事前にインターネットで、博物館（東京国立博物館、東京国立近代美術館）のホームページにアクセスし、情報発信の状況について目を通しておくこと。

■成績評価の方法・基準

□方法 授業態度、出席状況（評価の40%）および学期末のレポート（評価の60%）によって評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書：特になし。必要な資料は、授業の際に適宜配布する。

□参考文献：全国大学博物館講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版）2012年

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
62041	博物館教育論	2単位 後期 集中	2～3	講義	齋 正弘 (非)

■テーマ 社会教育の視点から博物館教育を考える。

■授業概要

社会教育施設における、実際的な教育活動を組み立てる時に必要なものの考え方を、主に美術館での実践を通して学ぶ。

■学習目標

そのために、これまで様々な形で学んで来た美術と教育を巡る個人の体験を、本来持つ美術と博物館の概念に丁寧に擦り合わせ点検して、現在の問題点とこれからの見通しを考える。

■授業計画・方法

集中講義のため、要点だけを述べ、若干の実践を通してその具体的な方法を体験する。

- 一日目 「美術」の点検→近代の自覚
 - 図工と美術→造形を伴わない美術の有り様
 - 改めて美術史を振り返る→視点の有る所
 - 何を／何が見えるのか→見る事の自覚
- 二日目 「教育」の点検→個人の自覚
 - 教育の主体の有る所→学校教育と教育の違い
 - 生物としての人間の発生と発達→見ている世界（観）の自覚
 - 教えるでなく連れ添うという立場→具体的な活動の組み立て方
- 三日目 「博物（美術）館」とは何か→社会教育の中の博物（美術）
 - 「美術」を巡る、「教育的」な「配慮」を伴う、「活動」の「考え方」、を知る
 - 学校教育でない教育での、先生の立ち位置→ワークショップというものの考え方
 - ファシリテーションについて 実践を伴う

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- 美術だけでなく、できるだけ多くのワークショップと呼ばれる活動に参加しておくこと。
- 可能なら、岩波書店のWinnie-the-Poohを巡る幾冊かの本を読んでおくこと。
- 県立美術館の常設展を見ておくこと。
- 可能なら、様々な博物館施設の食堂売店施設を利用してみること。

■成績評価の方法・基準

- 方法 リポートの提出。（100点満点）
 - これまでの教育体験を、賛否を問わず、改めて自覚、客観視できたか。（30点）
 - これまでの美術体験を、賛否を問わず、自覚、客観視できたか。（30点）
 - 美術館の存在意義について意見を持てたか。（40点）

□基準

□到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

- 教科書：特にありません
- 参考文献：大きな羊の見つけ方 「使える」美術の話（齋正弘 著 仙台文庫）

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
62052	生涯学習概論	2単位 前期 集中	1~3	講義	柴田 聡史 (非)

■テーマ 生涯学習社会を考える

■授業概要

講義では、生涯学習や社会教育の意義と特質、生涯学習に関する理念や制度、生涯学習関連行政の役割、国や自治体の生涯学習振興に関する施策、学校教育等との関連、専門的職員の役割、学習活動への支援等についての理解を深めるとともに、実際の制度や施策について触れながら、生涯学習社会の構築に向けた現状と課題について検討する。

■到達目標

- ① 生涯学習の意義と特質について理解する。
- ② 生涯学習に関する理念、制度、行政、施策について理解する。
- ③ 学校教育等との関連、専門的職員の役割、学習活動への支援等について理解する。
- ④ 上記を通して生涯学習社会の構築について自らの意見を持つことができる。

■授業計画・方法

- 0 1. 生涯学習とは何か (オリエンテーション)
- 0 2. 教育と学習
- 0 3. 生涯学習・生涯教育論の展開
- 0 4. 生涯学習・社会教育の意義・特質
- 0 5. 生涯学習社会の意義とその構築
- 0 6. 生涯学習を支える学習機会とその多様化
- 0 7. 生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育の役割
- 0 8. 生涯学習振興政策の展開
- 0 9. 生涯学習関連行政の意義と役割
- 1 0. 総合政策としての生涯学習行政
- 1 1. 自治体の生涯学習施策の多様化
- 1 2. 生涯学習の内容・方法・形態
- 1 3. 学習支援と学習成果の評価・活用
- 1 4. 生涯学習・社会教育指導者の役割
- 1 5. 授業のまとめと筆記試験

以上、1項目=1コマとする。

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

主として講義形式で進めるが、5名程度でのグループワークなどの活動も行うので、各自の積極的な参加が求められる。また、可能な限り下記の参考文献を読んでおくこと。

■成績評価の方法・基準

- 方法
- ① 平常点・・・・・・・・・・・・・・・・・・授業への主体的な参加度の判定 (20%)
 - ② コメントペーパーまたはワークシート (各回の最後に提出)・個別事項の理解度の判定 (30%)
 - ③ 筆記試験 (レポートの場合有り)・・・・・・・・・・授業の総合的な理解度の判定 (50%)

以上を総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献 (作品) 等

□教科書：なし (講義の際に印刷資料を配付する)

□参考文献：大桃敏行・背戸博史 編著『生涯学習 - 多様化する自治体施策 - 』東洋館出版、2010年。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
62071	博物館実習	3単位 通年	3~4	実習	森 達也 倉成 多郎 (非) 比嘉 明子 (非)

■テーマ 博物館学芸員の仕事を理解する

■授業概要

博物館学課程の仕上げとして、夏季休暇中に学外の博物館において館園実習を行い、学芸員業務の実際を学ぶ。また館園実習の事前指導として、博物館見学実習、資料取り扱い実習、展示実習などを行い、館園実習後には見学実習、報告会および事後指導を実施する。

■学習目標

博物館・美術館の学芸員の実際の業務に触れることを通じて、博物館資料の取り扱いなど学芸員の実践的な技術と方法を習得する。

■授業計画・方法

博物館実習は、「学内実習」（実務実習・見学実習・事前事後指導）と学外の美術館・博物館へ実習に行く「館園実習」で構成される。すべて集中講義で行われ、授業計画は下記のとおりである。日程については、公示や個別連絡により通知する。

- (1) 第1日目…実習オリエンテーションを行い、沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館の施設見学を行う。
- (2) 第2日目・3日目…館園実習の前に見学実習（自由見学）を行う。
- (3) 第4日目・5日目…附属芸術資料館において、館園実習に向けての講義を受け、資料の扱い方など学芸員実務の基礎を学ぶ。5日目の終わりに事前指導を行い、実習生にふさわしい態度や心構えを身につける。
- (4) 第6日目～15日目…館園実習は原則的に10日間とし、学外での実習がこれに満たない場合は、不足分を大学附属図書・芸術資料館で実習する。実習期間は原則として夏季休業中とする。
- (5) 第16日目…他大学のユニバーシティミュージアムを訪ね、見学実習を行う。その後、各自実習の総括を行い、報告事項をまとめる。
- (6) 第17日目…館園実習の報告会を行い、実習の内容と感想・反省を報告してもらう。また事後指導においては、実習を振り返るとともに、共通課題について議論するなどして、問題を解決していく。

日程	授業内容	
第1日目	4月6日	実習オリエンテーション、見学実習（附属芸術資料館施設見学）
第2日目	5～6月	館園実習の前の見学実習（自由見学）
第3日目	5～6月	館園実習の前の見学実習（自由見学）
第4日目	6月29日	実務実習（講義、資料の取扱い：資料の梱包・掛け軸・屏風・陶磁器）
第5日目	6月30日	実務実習（資料の取扱い：立体物の展示と照明、グループワーク）、事前指導
第6日目	原則として夏季休業中。 補講は十月以降	館園実習 1日目
第7日目		館園実習 2日目
第8日目		館園実習 3日目
第9日目		館園実習 4日目
第10日目		館園実習 5日目

第11日目		館園実習 6日目
第12日目		館園実習 7日目
第13日目		館園実習 8日目
第14日目		館園実習 9日目
第15日目		館園実習 10日目
第16日目	11月30日	見学実習（琉球大学附属資料館風樹館見学）、各自実習の総括
第17日目	12月1日	館園実習報告会、事後指導

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- (1) 本学の博物館学課程を履修している学部生および大学院生、または本学を卒業・修了した科目等履修生を対象とする。
- (2) 博物館実習を除く指定教育科目をすでに履修した者、あるいは博物館実習を履修する年度中にすべてを履修する見込みのある者について受講を認める。ただし、博物館概論は履修済みでなければならない。
- (3) 博物館実習を履修する前年度の10月に行われる博物館実習ガイダンスに出席し、「博物館実習申込書」を提出していない者の履修は認めない。
- (4) 博物館実習を受講するには、各館の定める実習費が必要になる場合がある。その場合は、各受講生に対し金額や支払い方法等を知らせる。
- (5) 学生教育研究災害傷害保険（学研災）および学研災付帯賠償責任保険（付帯賠）、またはこれに相当する保険に加入していない者の受講は認めない。
- (6) 教職課程の教育実習や自由科目等、各自の制作や練習の都合で実習を取りやめたり、実習日や時間を変更したりすることはできない。
- (7) 博物館実習は公欠扱い（両学部『履修規程』第10条第6項の「欠席日数に加えない理由」）には該当しない。
- (8) 実習中は「博物館実習録」をつける必要がある。自由見学と館園実習については、それぞれレポートの提出が必要。館園実習レポートは『Mouseion(ムセイオン)』誌に掲載する。
- (9) 学外の実習希望館への連絡方法や提出する課題等の指導を行うため、前学期のみ個別に指導する時間を設ける。
今年度は月曜日3時限目（12:40～14:10）とする。

■成績評価の方法・基準

□方法

実習館による館園実習の成績と担当教員による学内実習の成績を合わせて評価する。

□基準

到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書

特になし。必要な資料は、授業の際に適宜配布する。

□参考文献

全国大学博物館講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版）2012年